

## 準仮想化Linuxゲストドメインの定義XMLパラメータ

エレメント/属性		値の型/選択肢	説明
<domain>	type	xen	
	id	-1 [0-9]+	(省略可) 通常はドメイン起動時の自動生成に任せるので、'-1'に変更する
	<name>	[a-zA-Z0-9_+\-]+	定義名
	<bootloader>	絶対パス	(省略可) /usr/bin/pygrubを指定すれば下記<os>ブロックは不要
	<os>	<type> linux	準仮想ではlinuxのみ
		<kernel> dom0ファイルシステム上での絶対パス	カーネル
		<initrd> dom0ファイルシステム上での絶対パス	(省略可)
		<root> ゲストから見た絶対パス	次項<cmdline>内で渡してもよい
		<cmdline>	(省略可) カーネルに渡すその他のパラメータ
	<uuid>		(省略可) エレメントごと取り除いてドメインのdefine/起動時の自動生成に任せるか、uuidgenで発生させたランダムなuuidを書いておく
	<memory>	[0-9]+	(省略可だが基本的には書く) 単位はKB
	<currentMemory>	[0-9]+	(省略可だが基本的には書く) 起動時に実際に割り当てるメモリ。RHEL/CentOS 5.3, 5.4では、省略するとdefine時にエラーになる。単位はKB
	<vcpu>		(省略可) CPU数
	<clock>	offset utc localtime	(省略可) 物理マシンのBIOSクロックをそのまま(utc)ゲストに提示するか、ローカルタイムに補正して提供するか。デフォルトは'utc'
	<features>	<pae> 空エレメント	(省略可)
		<apic> 空エレメント	(省略可)
		<acpi> 空エレメント	(省略可)
	<on_poweroff>	destroy restart preserve rename-restart	礼儀正しく停止する時にトリガーする動作
	<on_reboot>	destroy restart preserve rename-restart	再起動命令をした時にトリガーする動作
	<on_crash>	destroy restart preserve rename-restart	クラッシュ状態に陥った時にトリガーされる動作
	<devices>	<disk>	type block file
		device disk cdrom floppy	エミュレートするデバイスタイプ
		<driver> name phy file	(エレメント省略可)
		type	(省略可)
		<source> dev	type=blockの時。dom0上から見たdevパス
		file	type=fileの時。dom0上から見たファイルパス
		<target> dev	ゲストから見えるdev名
		<readonly>	空エレメント
		<interface>	type bridge ethernet user
		<source> bridge	type=bridgeの時
		dev	type=ethernetの時
		<target> dev	(エレメント省略可) 例えば'vif1.0'。通常はドメイン起動時の自動生成に任せるのでエレメントごと取り除く
		<mac> address	(エレメント省略可)
		<ip> address	(エレメント省略可)
		<script> path	相対パスも可 (エレメント省略可) IFを整備するためのスクリプト名
		<graphics>	type sdl vnc
		port -1 [0-9]+	type=vncの時。5900以上のポートを指定するか、自動を示す'-1'
		autoport yes no	ポート番号を自動決定するか
		listen IPアドレス	(省略可) type=vncの時。通常は'127.0.0.1'
		passwd	(省略可) type=vncの時
		keymap	(省略可)
		<console>	type (エレメント省略可)